

自然数  $n$  に対して,  $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x \, dx$  とおく。

- (1) 定積分  $I_1, I_2, I_3$  を求めよ。
- (2) 次の不等式を証明せよ。  $I_n \geq I_{n+1}$
- (3) 次の漸化式が成り立つことを証明せよ。  $I_{n+2} = \frac{n+1}{n+2} I_n$
- (4) 次の極限値を求めよ。  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{I_{2n+1}}{I_{2n}}$

< '10 大阪教育大 >

【戦略】

- (1) 基本的な定積分の計算問題です。

$I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \, dx$  は問題ないでしょう。

$I_2 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 x \, dx$  は「偶数乗は半角」という常套手段で倒します。

$I_3 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^3 x \, dx$  は「奇数乗は1乗分離」という常套手段です。

- (2) 定積分の基本事項

$a \leq x \leq b$  において  $f(x) \geq g(x)$  ならば  $\int_a^b f(x) \, dx \geq \int_a^b g(x) \, dx$

を活用します。

積分区間  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  において  $0 \leq \sin x \leq 1$  ですから, 基本的に  $\sin x$  はかければかけるほど小さくなります。

したがって,  $\sin^n x \geq \sin^{n+1} x$  ということになります。

- (3) 積分漸化式の作成の常套手段は部分積分です。
- (4) (3) の漸化式は2つ飛ばしの漸化式ですから, 偶奇で様子が分かれるという部分が目につくかもしれません。

$I_{2n}, I_{2n+1}$  を直接計算すると

$$\begin{aligned} I_{2n} &= \frac{2n-1}{2n} \cdot \frac{2n-3}{2n-2} \cdot \frac{2n-5}{2n-4} \cdots \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} I_0 \\ &= \frac{2n-1}{2n} \cdot \frac{2n-3}{2n-2} \cdot \frac{2n-5}{2n-4} \cdots \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{\pi}{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} I_{2n+1} &= \frac{2n}{2n+1} \cdot \frac{2n-2}{2n-1} \cdot \frac{2n-4}{2n-3} \cdots \frac{2}{3} I_1 \\ &= \frac{2n}{2n+1} \cdot \frac{2n-2}{2n-1} \cdot \frac{2n-4}{2n-3} \cdots \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{2} \end{aligned}$$

となり, ここから,  $\frac{I_{2n+1}}{I_{2n}}$  を計算すると,

$$\frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} = \frac{1}{2n+1} \cdot \frac{(2n)^2 (2n-2)^2 \cdots 2^2}{(2n-1)^2 (2n-3)^2 \cdots 3^2} \cdot \frac{2}{\pi}$$

となります。(詳しい計算過程は後述します。)

ここで  $n \rightarrow \infty$  としても「??」となるでしょう。

ここで, 直接の極限計算は一旦見切りをつけるべきです。

リカバリーとしては

隣接2項間の関係として(2)の不等式に目を付けます。

そうなってくると, 直接計算によらない(ターゲットに直接触れない)極限の導出方法として

「はさみうちの原理」

で仕留める方針が思いつくでしょう。

$$I_{2n+2} \leq I_{2n+1} \leq I_{2n} \text{ ですから, } \frac{I_{2n+2}}{I_{2n}} \leq \frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} \leq 1$$

と挟んで, 最左辺で(3)を効かせていくと

$$\frac{2n+1}{2n+2} \leq \frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} \leq 1 \text{ となり, はさみうち完成です。}$$

【解答】

$$(1) I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \, dx = [-\cos x]_0^{\frac{\pi}{2}} = 1 \cdots \text{㊟}$$

$$I_2 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 x \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 - \cos 2x}{2} \, dx = \frac{1}{2} \left[ x - \frac{1}{2} \sin 2x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{4} \cdots \text{㊟}$$

$$\begin{aligned} I_3 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^3 x \, dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 x \sin x \, dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos^2 x) \sin x \, dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \, dx - \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\cos x)^2 \sin x \, dx \\ &= I_1 - \left[ -\frac{1}{3} (\cos x)^3 \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= 1 + \frac{1}{3} (0 - 1) \\ &= \frac{2}{3} \cdots \text{㊟} \end{aligned}$$

$$(2) \text{ 積分区間 } 0 \leq x \leq \frac{\pi}{2} \text{ において } 0 \leq \sin x \leq 1 \text{ であるから}$$

$$\sin^n x \geq \sin^{n+1} x$$

$$\text{ゆえに, } \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x \, dx \geq \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n+1} x \, dx$$

よって,  $I_n \geq I_{n+1}$  が成立する。

$$\begin{aligned}
 (3) \quad I_{n+2} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n+2} x \, dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{n+1} x (-\cos x)' \, dx \\
 &= \left[ -\sin^{n+1} x \cos x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} + \int_0^{\frac{\pi}{2}} (n+1) \sin^n x \cos^2 x \, dx \\
 &= (n+1) \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^n x (1 - \sin^2 x) \, dx \\
 &= (n+1)(I_n - I_{n+2})
 \end{aligned}$$

ゆえに,  $(n+2)I_{n+2} = (n+1)I_n$

すなわち  $I_{n+2} = \frac{n+1}{n+2}I_n$  が成立する。

$$(4) \quad (2) \text{ より, } I_{2n+2} \leq I_{2n+1} \leq I_{2n}$$

$I_1 > 0$  であり, (3) の漸化式から帰納的に  $I_m > 0$  ( $m=1, 2, \dots$ ) であることに注意して, 辺々  $I_{2n} (> 0)$  で割ると

$$\frac{I_{2n+2}}{I_{2n}} \leq \frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} \leq 1$$

ここで (3) より,  $I_{2n+2} = \frac{2n+1}{2n+2}I_{2n}$  であるため

$$\frac{I_{2n+2}}{I_{2n}} = \frac{2n+1}{2n+2} = \frac{2 + \frac{1}{n}}{2 + \frac{2}{n}} \longrightarrow 1 \quad (n \rightarrow \infty)$$

ゆえに, はさみうちの原理から  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} = 1 \dots \square$

#### 【総括】

ウォリスの公式を背景にもつ古典的な内容であり, 多くの大学で出題されているため, 割と手垢の付いた話題です。

ちなみにウォリスの公式とは次のようなものです。

$$\prod_{n=1}^{\infty} \frac{(2n)^2}{(2n-1)(2n+1)} = \frac{\pi}{2}$$

$\prod$  というのは「総積」を表す記号で,  $\sum$  の掛け算 Ver と思ってください。

具体的に書き下すと

$$\frac{2 \cdot 2}{1 \cdot 3} \times \frac{4 \cdot 4}{3 \cdot 5} \times \frac{6 \cdot 6}{5 \cdot 7} \times \frac{8 \cdot 8}{7 \cdot 9} \times \dots = \frac{\pi}{2}$$

というものです。

ここで【戦略】で行き詰まった  $\frac{I_{2n+1}}{I_{2n}}$  の直接計算の路線について少し触れておきます。

(3) の漸化式から

$$I_{2n} = \frac{2n-1}{2n} I_{2n-2} = \frac{2n-1}{2n} \cdot \frac{2n-3}{2n-2} I_{2n-4} = \dots$$

$$\begin{aligned}
 I_{2n} &= \frac{2n-1}{2n} \cdot \frac{2n-3}{2n-2} \cdot \frac{2n-5}{2n-4} \dots \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} I_0 \\
 &= \frac{2n-1}{2n} \cdot \frac{2n-3}{2n-2} \cdot \frac{2n-5}{2n-4} \dots \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{\pi}{2}
 \end{aligned}$$

を得ます。

同様に,

$$I_{2n+1} = \frac{2n}{2n+1} I_{2n-1} = \frac{2n}{2n+1} \cdot \frac{2n-2}{2n-1} I_{2n-3} = \dots$$

と考えていくと

$$\begin{aligned}
 I_{2n+1} &= \frac{2n}{2n+1} \cdot \frac{2n-2}{2n-1} \cdot \frac{2n-4}{2n-3} \dots \frac{2}{3} I_1 \\
 &= \frac{2n}{2n+1} \cdot \frac{2n-2}{2n-1} \cdot \frac{2n-4}{2n-3} \dots \frac{2}{3}
 \end{aligned}$$

となります。

これより

$$\begin{aligned}
 \frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} &= \frac{\frac{2n}{2n+1} \cdot \frac{2n-2}{2n-1} \cdot \frac{2n-4}{2n-3} \dots \frac{2}{3}}{\frac{2n-1}{2n} \cdot \frac{2n-3}{2n-2} \cdot \frac{2n-5}{2n-4} \dots \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{\pi}{2}} \\
 &= \left( \frac{2n}{2n+1} \cdot \frac{2n-2}{2n-1} \cdot \frac{2n-4}{2n-3} \dots \frac{2}{3} \right) \times \left( \frac{2n}{2n-1} \cdot \frac{2n-2}{2n-3} \cdot \frac{2n-4}{2n-5} \dots \frac{4}{3} \cdot \frac{2}{1} \right) \times \frac{2}{\pi}
 \end{aligned}$$

最後の  $\frac{2}{\pi}$  はいったんおいておきます。

分母には奇数が集まっていますが,  $\left\{ \begin{array}{l} 2n+1 \text{ と } 1 \text{ が } 1 \text{ 個} \\ 3 \sim 2n-1 \text{ が } 2 \text{ 個ずつ} \end{array} \right.$  あり

分子には  $2 \sim 2n$  までの偶数が  $2$  個ずつ集まっています。

したがって,

$$\frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} = \frac{2 \cdot 2}{1 \cdot 3} \times \frac{4 \cdot 4}{3 \cdot 5} \times \frac{6 \cdot 6}{5 \cdot 7} \times \dots \times \frac{(2n-2)(2n-2)}{(2n-3)(2n-1)} \times \frac{(2n)(2n)}{(2n-1)(2n+1)} \times \frac{2}{\pi}$$

ということになり, (4) の結果から  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{I_{2n+1}}{I_{2n}} = 1$  でしたから

$$\frac{2 \cdot 2}{1 \cdot 3} \times \frac{4 \cdot 4}{3 \cdot 5} \times \frac{6 \cdot 6}{5 \cdot 7} \times \frac{8 \cdot 8}{7 \cdot 9} \times \dots = \frac{\pi}{2}$$

という無限積を得ることになり, これはウォリスの公式が主張する結果です。

なお、ウォリスの公式と呼ばれるものにはもう一つ

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2^{2n} (n!)^2}{\sqrt{n} (2n)!} = \sqrt{\pi}$$

という形のものもあります。

これについては【類題】で扱います。